歌浦っ子だより（学校だより）

「やさしい心　夢かがやく　歌小の子どもの育成」

平成29年10月12日　　文責：校長　内野義和

前期終業式

保護者の皆様、地域の皆様のおかげで、無事に前期終業式を迎えることができました。ありがとうございました。ちょうど1年の半分になります。前期でどの子供たちも大きく成長しました。後期、さらに成長するよう全教職員で取り組んでいきます。後期もよろしくお願いいたします。

さて、その終業式の様子をお知らせいたします。

1　前期行事の振り返り

大きな行事としては、次のことがありました。

4月　入学式　歓迎遠足
5月　運動会
6月　プール掃除（5年・6年）　プール開き　いもさし　田植え（5年）
7月　修学旅行（6年）
9月　宿泊体験学習（5年）

どの行事にも子供たちは全力で取り組み、成果があがりました。特に6年生は、雨に悩まされはしましたが、仲間との協力もあり、思い出深い修学旅行になったと思います。

2　学校の教育目標

本校の教育目標は**「やさしい心　夢かがやく　歌小の子どもの育成」**です。

「やさしい心」の育成のため、3つの「あ」と返事・反応を呼びかけています。前期は特に「大きなあいさつ」「大きな返事」に取り組んできました。大方の子供ができるようになったのかなと思いますが、ご家庭、地域ではどうでしょうか。学校だけでなく、家庭・地域でもしっかりできるようにご協力ください。褒めたり、励ましたりしていただければありがたいです。さて、本校は「当たり前のことを当たり前にする、スマートにする」を合い言葉にしています。名札調べをしましたら、全校で名札忘れが10人ほどいました。先週、5日（木）、集団下校の際に生活指導主任の平山先生から注意されていたのに、翌日この有様です。本校は同じ苗字の子供が多いです。下の名前までは覚えていない先生もいます。また、名札をつけていれば、地域の人からも名前を覚えてもらえます。さらに名札をつけることで、しっかりした行動をとろうという意識付けにもなります。ご家庭でも声かけをお願いいたします。

「夢かがやく」ため、「できた」をたくさん、いろいろと増やそうと呼びかけています。一人一人の通知表の所見を読みましたら、どの子供にも「できた」がたくさん、いろいろとあり、褒められていました。みんな頑張ったのだなと思い、うれしくなりました。私の話の前に3人の代表の子供が前期頑張ったことの発表をしました。

1年生の神戸璃莉さんは、給食を全部食べた、友達に優しくできたと発表しました。3年生の浦田真理愛さんは、姿勢がよくなった、給食を早く食べることができるようになった、あいさつを自分からできた、発表ができた、64マス計算が速くなった、リコーダーをふくことができた、学級のみんながはぶてなくなったと発表しました。5年生の中野真愛さんは、計算が速く正確になった、放送委員会の仕事を時間ピッタリにできた、バレーで打ちやすいトスをあげたと発表しました。まさに、「できた」をたくさん、いろいろと増やしました。すばらしいです。また、発表も全校児童の方を向いて、伝わるように堂々と発表しました。4月に6年生が見本を見せてくれたのが、広がっています。うれしいことです。

読書の秋

来月1日から9日までは読書週間です。うれしいお知らせがあります。市の読書感想文コンクールで、1年生の吉浦大朗さんが書いた読書感想文が課題図書の部で市の代表となり、県審査に出されました。早速読んでみました。とても素晴らしかったです。感想文は本のあらすじを書くことではありません。本の内容に関わる自分の体験を書くことです。大朗さんは「かかしのしきしゃ」という本を読んで、自分が聞いた「いろいろな音」を書いています。

（外では）せみのなくおと、からすのなくこえ、かっているいぬのしっぽをふるおと、おとうさんのくしゃみ

（家の中では）なつやすみにつかまえたかぶとむしのたたかうおと、きんぎょがえさをぱくぱくたべるときのみずのおと、おかあさんがごはんをつくるおと

よく聞いています。外と家の区別もうまいなと思うのですが、大朗さんは、「ぼくのおともあります。しんぞうがとんぼみたいにどっくんどっくんとうごいています」と続けます。そして、「いのちのおとは、うまれたときにきこえます。そしてしんでしまうときこえなくなります。だけど、つぎのひとにちゃんとバトンをわたすので、おとはずっとつづいていくんだとおもいました。ぼくは、おとうさん、おかあさんからもらったいのちのおとをだいじにします。ぼくのこどもにバトンをわたしたいです」と書きました。**大朗さんは命のバトンを音で理解したのです。**最後に、大朗さんは、「かかしに、ぼくのいのちのおとがきこえるようにがんばろうとおもいます」と結んでいます。書き始めの「かかしはなんのおとをきいてしきをしているのだろう」に呼応して、終わっているのです。本を読んでの疑問→自分の周りの音探し（自分の体験1）→自分自身の命の音理解（自分の体験2）→本から学んだことという構成です。内容も構成もすばらしい読書感想文です。恐れ入りました。選んでいただいた感想文の審査員の先生方へ敬意を表します。また、指導した担任の先生へ感謝します。この大朗さんの感性、読解力、文章力はご家庭の環境、読書体験が大きく関わっていると思います。おめでとうございました。

この秋、ご家庭でも親子読書などされてみてはどうでしょう。